

2023（令和5）年さけます来遊状況（第6報：2/29現在）

4 サケ年齢組成と体サイズ

国立研究開発法人水産研究・教育機構
水産資源研究所 さけます部門 資源増殖部

- 全国の年齢別来遊数では、3年魚（2020年級）と4年魚（2019年級）は前年、平年ともに下回り、5年魚（2018年級）は前年を上回るが、平年を大きく下回る
- 北海道太平洋側では5年魚が平年の9%と1994（平成6）年以降で2番目に少なく、北海道日本海側では5年魚が平年の54%
- 本州太平洋側では3年魚、4年魚が1994年以降で最も少なく、本州日本海側では4年魚が1994年以降で最も少ない
- サケの平均重量は北海道で3.02kg、本州で3.03kgとなり、北海道では1994年以降で3番目に小さく、本州では2010年代後半と同等の水準

*1：平年とは、1994（平成6） - 2022（令和4）年の平均値

・サケの年齢組成 （全国）

全国の河川に回帰したサケの年齢査定の途中経過をもとに、2月29日現在における年齢別来遊数を推定したところ、年齢組成では、4年魚（2019年級）が全体の71%を占めて最も多く、次いで5年魚（2018年級）が19%、3年魚（2020年級）が10%となりました。前年同期との比較では、3年魚は27%、4年魚は69%と前年を下回りましたが、5年魚は188%と前年を上回りました（図1）。平年同期との比較では、3年魚は62%、4年魚は56%、5年魚は24%となっており、特に5年魚が平年を大きく下回り、1994（平成6）年以降で4番目に少ない値となりました。

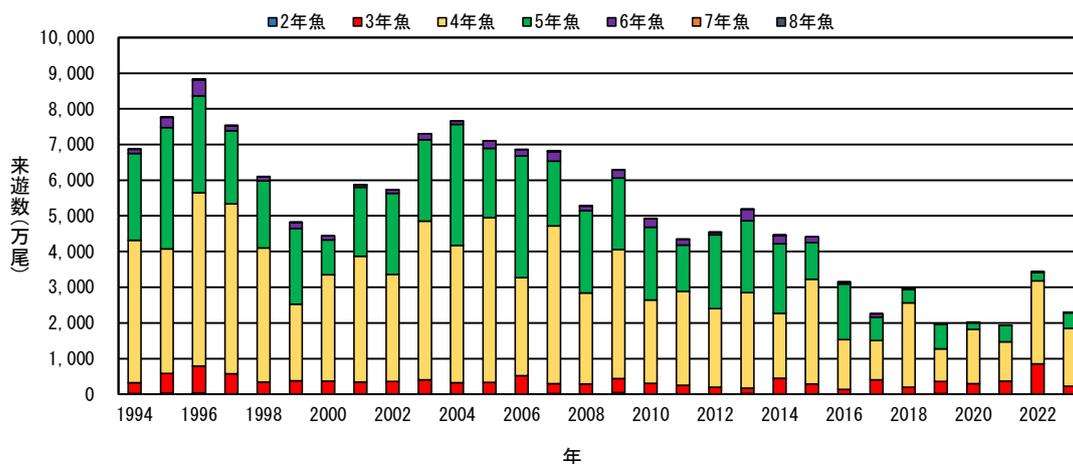


図1. 2月29日現在のサケ年齢別来遊数（全国）.

(北海道太平洋)

北海道太平洋側（根室海区～えりも以西海区）では、4年魚（2019年級）が全体の71%を占めて最も多く、次いで5年魚（2018年級）が15%、3年魚（2020年級）が14%となりました。3年魚の来遊数は前年同期の40%、平年同期の57%、4年魚は前年同期の66%、平年同期の27%、5年魚は前年同期の148%、平年同期の9%となっており、5年魚は1994（平成6）年以降で2番目に少ない値となりました（図2）。

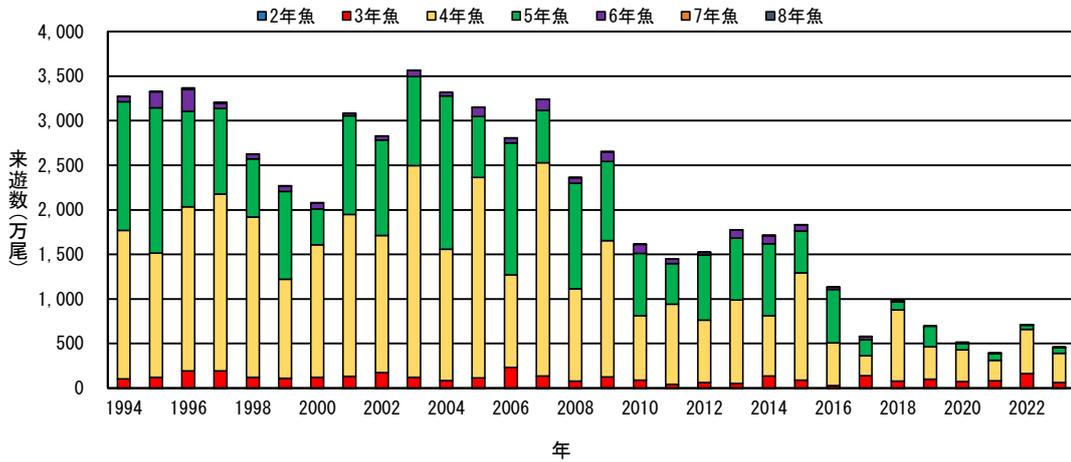


図2. 2月29日現在のサケ年齢別来遊数（北海道太平洋）.

年級群（生まれ年）ごとの来遊数をみると、今年の4年魚である2019年級を4年魚までの来遊数（2～4年魚の来遊数）で比べた場合、1992～2018年級の平均の38%の水準となりました。また、今年の5年魚である2018年級の5年魚までの来遊数（2～5年魚の来遊数）は、1992～2017年級の平均の32%の水準となりました（図3）。

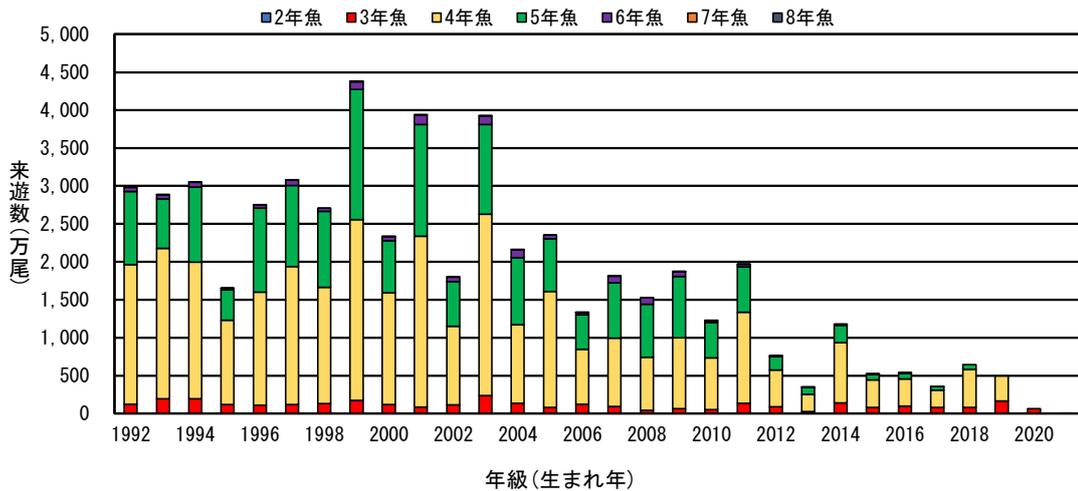


図3. 2月29日現在のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（北海道太平洋）.

(北海道日本海)

北海道日本海側（オホーツク海区および日本海区）では、4年魚（2019年級）が全体の71%を占めて最も多く、次いで5年魚（2018年級）が20%、3年魚（2020年級）が9%となりました。3年魚の来遊数は前年同期の23%、平年同期の114%、4年魚は前年同期の72%、平年同期の119%、5年魚は前年同期の198%、平年同期の54%となっており、5年魚は1994（平成6）年以降で8番目に少ない値となりました（図4）。

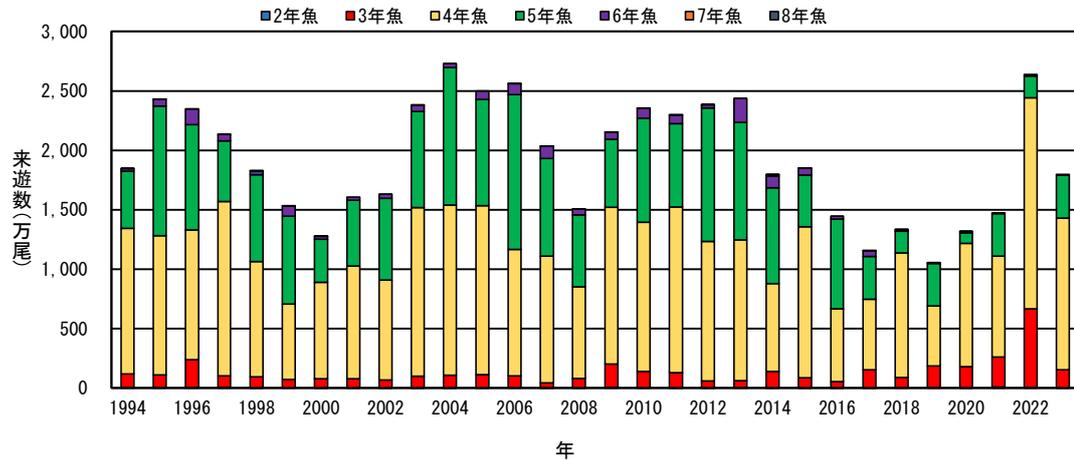


図4. 2月29日現在のサケ年齢別来遊数（北海道日本海）.

年級群（生まれ年）ごとの来遊数をみると、今年の4年魚である2019年級を4年魚までの来遊数（2～4年魚の来遊数）で比べた場合、1992～2018年級の平均の165%の水準となりました。また、今年の5年魚である2018年級の5年魚までの来遊数（2～5年魚の来遊数）は、1992～2017年級の平均の133%の水準となりました（図5）。

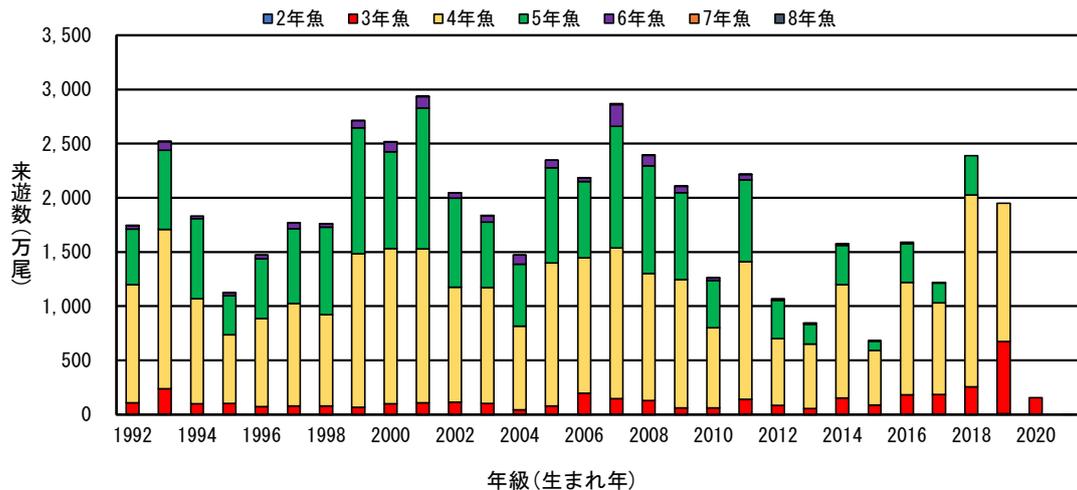


図5. 2月29日現在のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（北海道日本海）.

(本州太平洋)

本州太平洋側では、4年魚（2019年級）が全体の38%を占めて最も多く、次いで5年魚（2018年級）が31%、3年魚（2020年級）が30%を占めました。3年魚の来遊数は前年同期の78%、平年同期の3%、4年魚は前年同期の12%、平年同期の1%、5年魚は前年同期の141%、平年同期の1%となっており、3年魚および4年魚は1994（平成6）年以降で最も少ない値、5年魚は1994（平成6）年以降で2番目に少ない値となりました（図6aおよび図6b）。

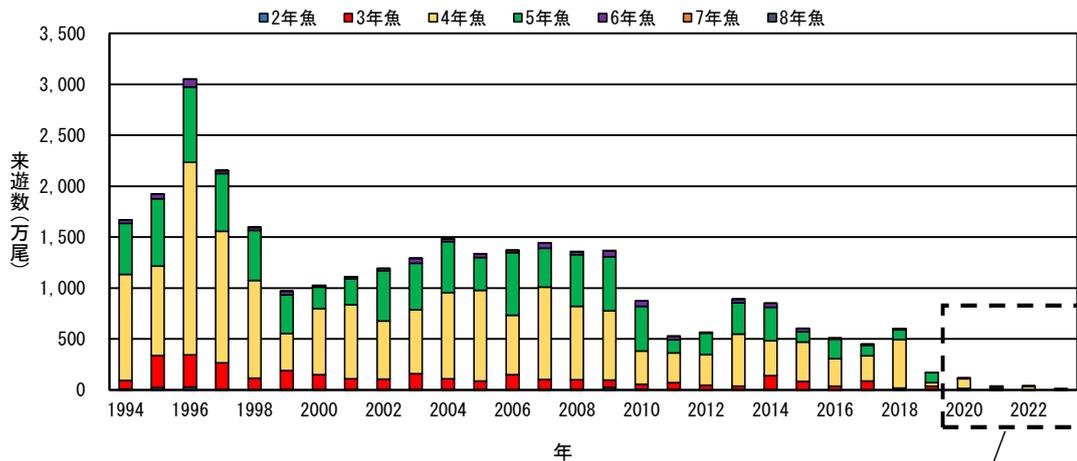


図 6a. 2月29日現在のサケ年齢別来遊数（本州太平洋）。

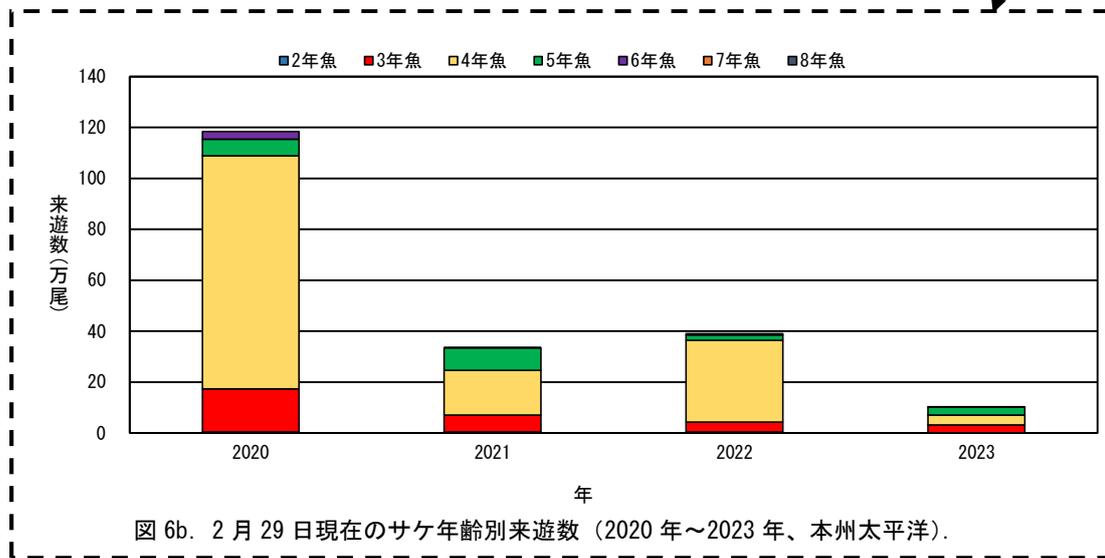


図 6b. 2月29日現在のサケ年齢別来遊数（2020年～2023年、本州太平洋）。

本州太平洋側の年級群（生まれ年）ごとの来遊数をみると、今年の4年魚である2019年級を4年魚までの来遊数（2～4年魚の来遊数）で比べた場合、1992～2018年級の平均の1%の水準となりました。また、今年の5年魚である2018年級の5年魚までの来遊数（2～5年魚の来遊数）は、1992～2017年級の平均の4%の水準となりました（図7aおよび図7b）。

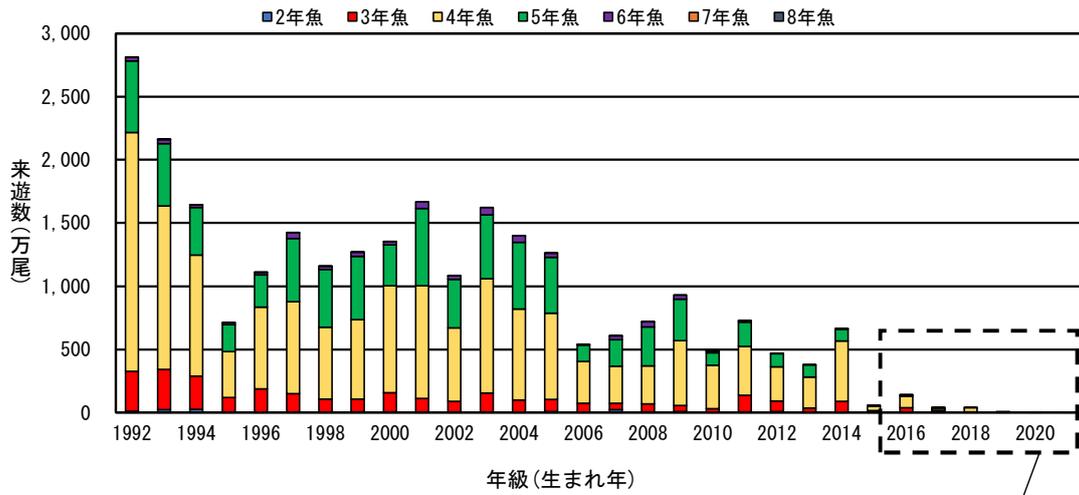


図 7a. 2月29日現在のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（本州太平洋）.

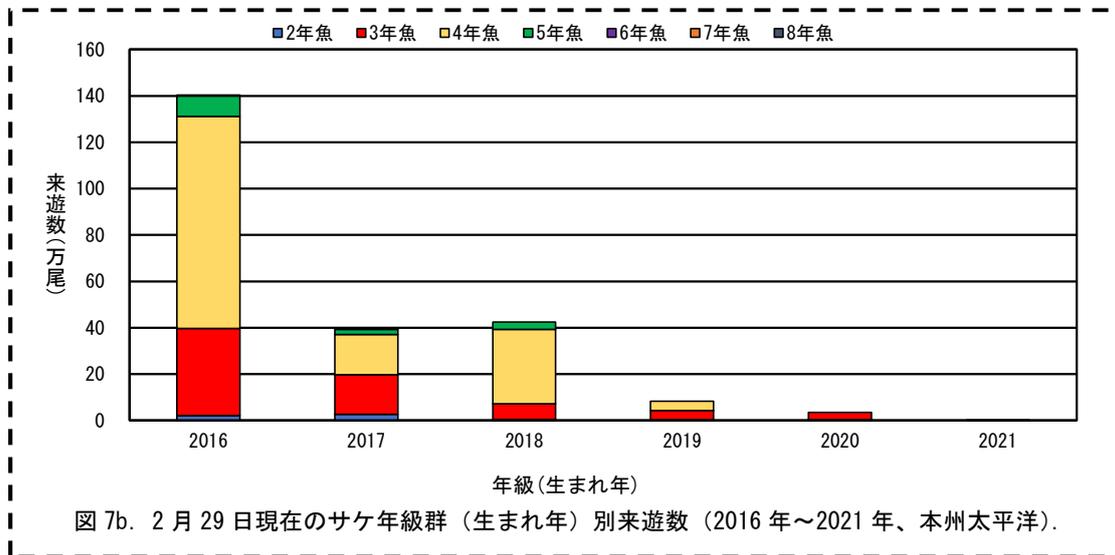


図 7b. 2月29日現在のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（2016年～2021年、本州太平洋）.

(本州日本海)

本州日本海側では、4年魚（2019年級）が全体の51%を占めて最も多く、次いで3年魚（2020年級）が35%、5年魚（2018年級）が13%を占めました。3年魚の来遊数は前年同期の48%、平年同期の45%、4年魚は前年同期の32%、平年同期の21%、5年魚は前年同期の203%、平年同期の17%となっており、4年魚は1994（平成6）年以降で最も少ない値となりました（図8）。

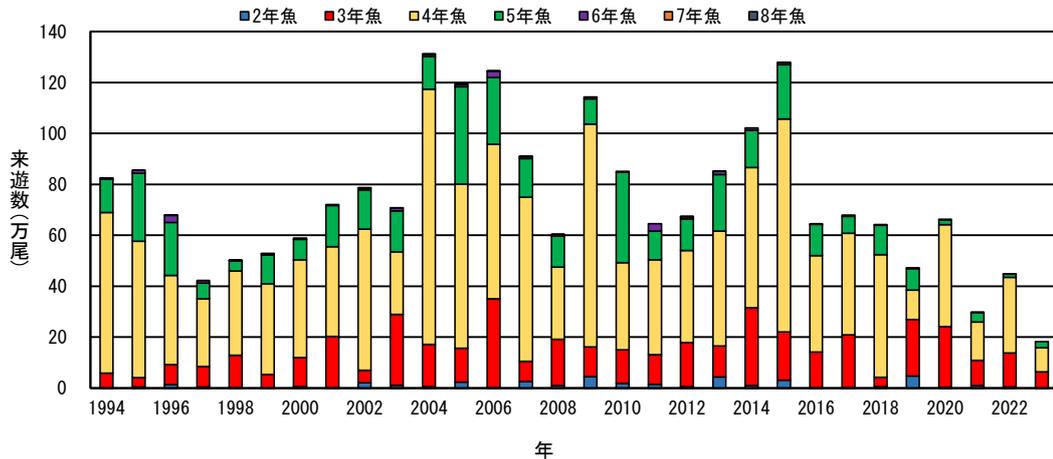


図8. 2月29日現在のサケ年齢別来遊数（本州日本海）.

本州日本海側の年級群（生まれ年）ごとの来遊数をみると、今年の4年魚である2019年級を4年魚までの来遊数（2～4年魚の来遊数）で比べた場合、1992～2018年級の平均の39%の水準となりました。また、今年の5年魚である2018年級の5年魚までの来遊数（2～5年魚の来遊数）は、1992～2017年級の平均の57%の水準となりました（図9）。

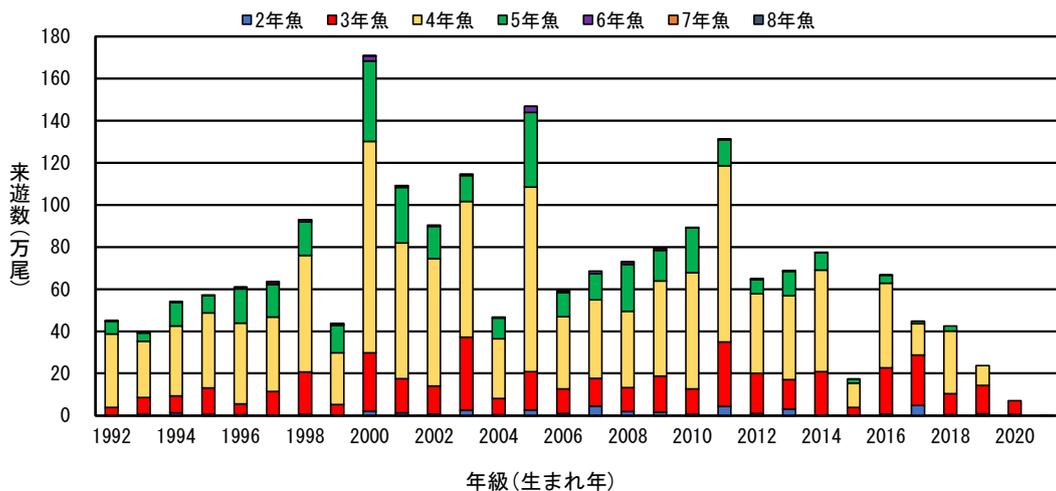


図9. 2月29日現在のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（本州日本海）.

・サケの体サイズ

(北海道)

北海道における2月29日現在のサケ1尾当たりの平均重量(漁獲数と漁獲重量から算出)は3.02kgであり、前年同期の平均重量2.83kgを上回りましたが、1994(平成6)年以降で3番目に小さい値となりました(図10)。

また、北海道の主要河川に2月29日現在までに回帰したサケ4年魚の平均尾叉長は65.9cmであり、前年同期の平均尾叉長64.8cmよりも大きく、1994(平成6)年以降で10番目に小さい値となりました(図11)。

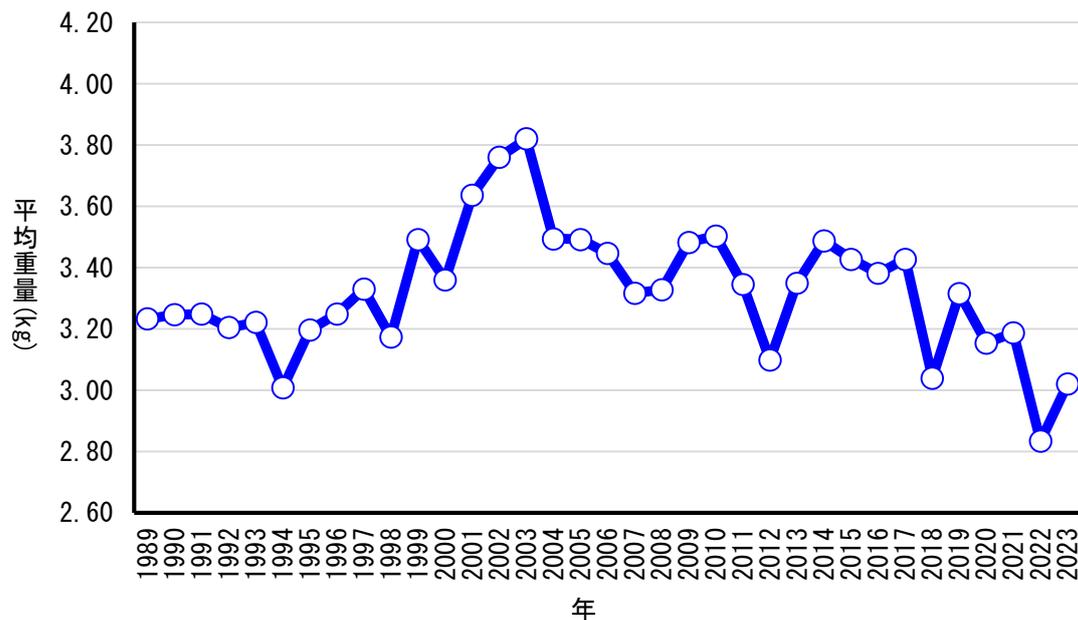


図10. 2月29日現在のサケ平均重量(北海道).

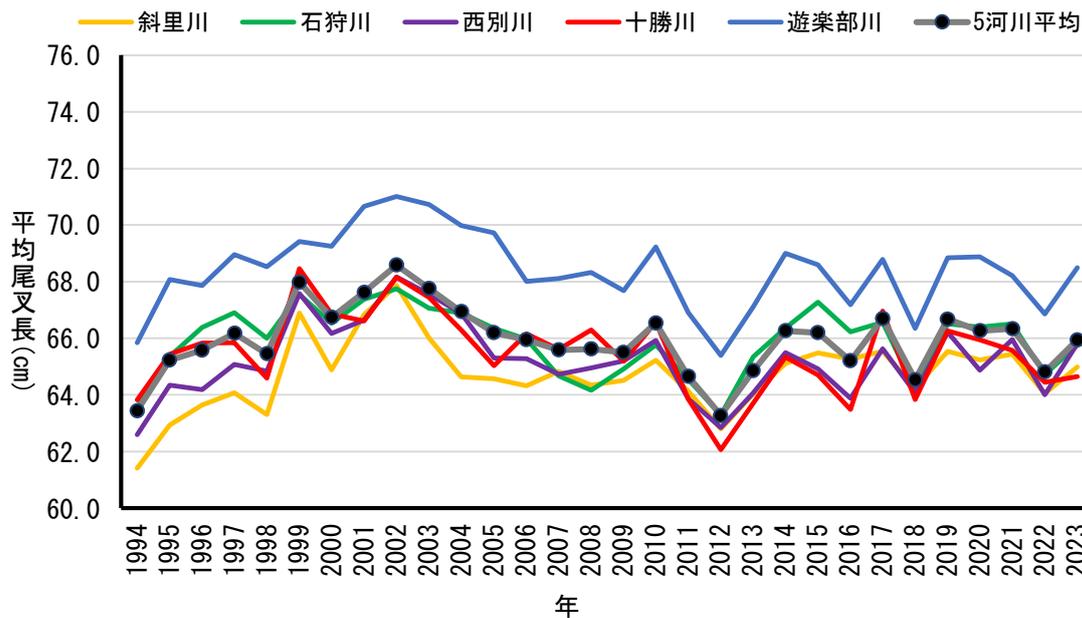


図11. 2月29日現在の北海道主要河川におけるサケ4年魚の平均尾叉長.

(本州)

本州における2月29日現在のサケ1尾当たりの平均重量(漁獲数と漁獲重量から算出)は3.03kgであり、前年同期の平均重量2.76kgを上回っており、2010年代後半と同等の水準となりました(図12)。

また、本州太平洋側の津軽石川、本州日本海側の月光川(牛渡川)に2月29日現在までに回帰したサケ4年魚の平均尾叉長はそれぞれ69.7cm、71.6cmであり、前年同期の平均尾叉長の66.4cm、69.5cmよりも大きくなりました(図13)。

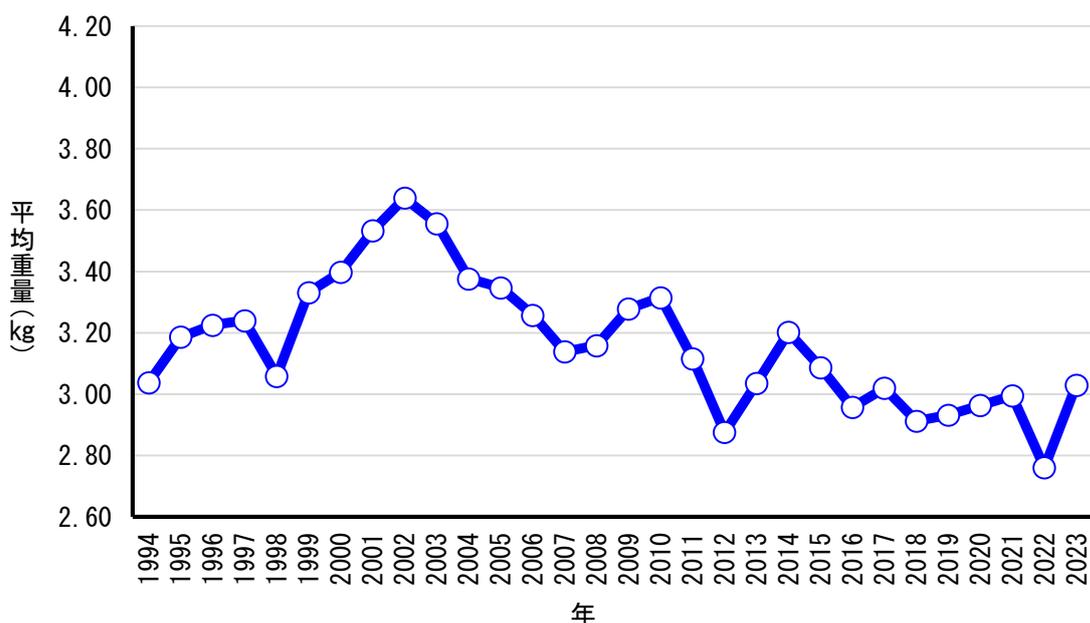


図12. 2月29日現在のサケ平均重量(本州).

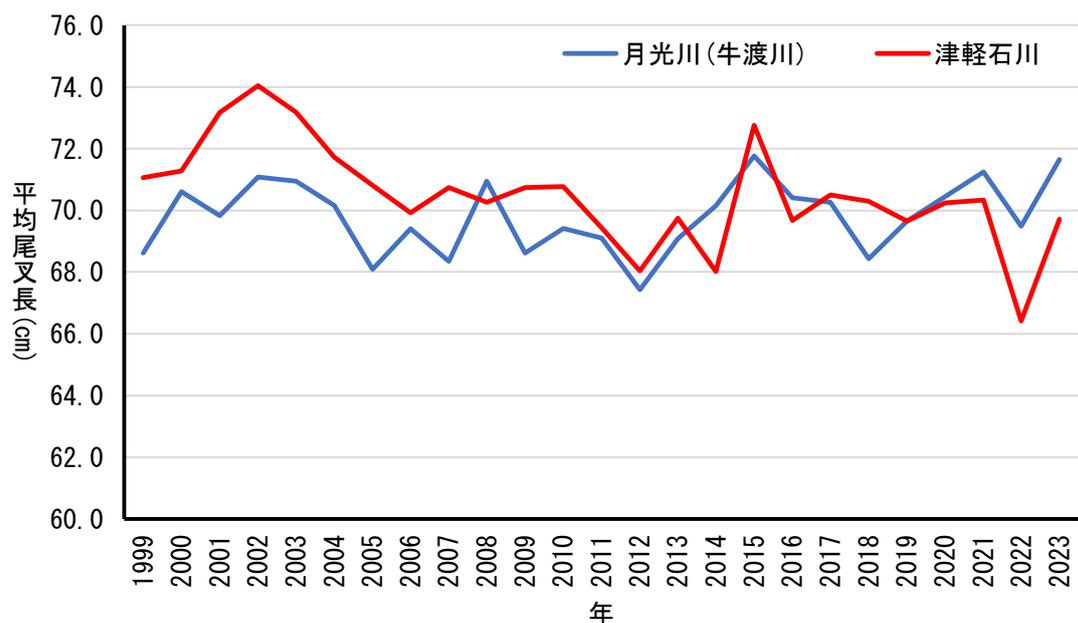


図13. 2月29日現在の本州2河川におけるサケ4年魚の平均尾叉長.